

平成 29 年 7 月 25 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 29 年 7 月 25 日 (火曜日)

午後 1 時 15 分から午後 2 時 10 分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席委員

教育長 高橋 譲 委 員 鷲尾 達雄 委 員 羽賀 友信
委 員 青柳 由美子 委 員 大久保 真紀

4 職務のため出席した者

| | | | |
|----------------|--------|----------------|-------|
| 教育部長 | 金澤 俊道 | 子ども未来部長 | 波多 文子 |
| 教育総務課長 | 曾根 徹 | 教育施設課長 | 中村 仁 |
| 学務課長 | 佐藤 正高 | 学校教育課長 | 竹内 正浩 |
| 子ども家庭課長 | 大矢 芳彦 | 保育課長補佐 | 遠藤 雄一 |
| 青少年育成課長補佐 | 小林 恵美子 | 中央図書館長補佐 | 梅沢 一茂 |
| 科学博物館長 | 小熊 博史 | 学校教育課主幹兼管理指導主事 | 高橋 和久 |
| 学校教育課主幹兼管理指導主事 | 柳沢 学 | 学校教育課主幹兼管理指導主事 | 神林 俊之 |

5 事務のため出席した者

| | | | |
|----------|-------|-----------|------|
| 教育総務課長補佐 | 星野 麻美 | 教育総務課庶務係長 | 佐藤 裕 |
| 教育総務課庶務係 | 濱 悠子 | 学校教育課指導主事 | 斎藤 豊 |

6 議事日程

| 日程 | 議案番号 | 案 件 |
|----|--------|-------------------------|
| 1 | | 会議録署名委員について |
| 2 | 第 29 号 | 長岡市立学校通学区域規則の一部改正について |
| 3 | 第 30 号 | 長岡市教職員住宅管理運営規則の一部改正について |
| 4 | 第 31 号 | 平成 30 年度使用教科用図書採択について |

7 会議の経過

(高橋教育長) これより教育委員会 7 月定例会を開会する。

◇日程第 1 会議録署名委員について

(高橋教育長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第 19 条第 2 項の規定により、羽賀委員及び青柳委員を指名する。

◇日程第 2 議案第 29 号 長岡市立学校通学区域規則の一部改正について

(高橋教育長) 日程第 2 議案第 29 号 長岡市立学校通学区域規則の一部改正について を議題とする。事務局の説明を求める。

(佐藤学務課長) 長岡市立学校通学区域規則の一部改正について説明する。上前島町、高島町及び青島町地内の町(字)の区域及び名称変更に伴い、規則の一部を改正するものである。JR 前川駅周辺の宅地開発が整い、町名変更が行われることにより、前川小学校区域と十日町小学校区域について通学区域の記載を改める。前川小学校の通学区域欄中の「上前島町」を「上前島町 上前島 1 丁目の一部 2 丁目 3 丁目 高島町の一部」とし、十日町小学校の通学区域欄中の「高島町」を「高島町の一部 上前島 1 丁目の一部」に変更する。なお、実際の通学区域に変更はない。

施行期日は、町名変更告示の効力の生ずる7月29日である。

(高橋教育長) 質疑、意見はあるか。

(高橋教育長) これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

◇日程第3 議案第30号 長岡市教職員住宅管理運営規則の一部改正について

(高橋教育長) 日程第3 議案第30号 長岡市教職員住宅管理運営規則の一部改正について を議題とする。事務局の説明を求める。

(佐藤学務課長) 和島教職員住宅、栃尾東教職員住宅、栃尾下塩谷教職員住宅は現在入居者がおらず、かつ老朽化等で今後も入居が見込めないため、今年度中に取り壊しを行い廃止する。この廃止に伴い、長岡市教職員住宅管理運営規則から削除するものである。現在、教育委員会で管理を行っている教職員住宅は全部で12あり、全て支所地域内である。何年も入居者がなく、老朽化が進んでいる教職員住宅のうち、今年度は3か所の教職員住宅を廃止する。なお、それぞれ昭和62年、昭和53年、昭和44年建築である。なお、取壊費用については今年度予算で計上されている。

(高橋教育長) 質疑、意見はあるか。

(高橋教育長) 昭和44年の建物は、木造か鉄筋か。

(佐藤学務課長) 栃尾下塩谷教職員住宅で木造2階建てである。

(高橋教育長) 木造2階建ての集合住宅は、現在あまり現存していないため、何か使い道はないのか。

(金澤部長) 老朽化が大変進んでおり、近所の方々から怖がられているのではないかと。また、集合住宅ではなく一戸建てである。

(高橋教育長) これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

◇日程第4 議案第31号 平成30年度使用教科用図書の採択について

(高橋教育長) 日程第4 議案第31号 平成30年度使用教科用図書の採択について を議題とする。これについては公表前であるので、非公開が適当ではないかと思うが、他の委員の方々はいかがか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) では、非公開とする。

————— 会議規則第20条第2項の規定により記録中止 —————

(高橋教育長) 以上をもって、本日の議案の審議は終了する。

(高橋教育長) 次に、協議報告事項に移る。最初に、平成28年度長岡市の児童生徒の問題行動等について 事務局の説明を求める。

(斎藤学校教育課指導主事) 文部科学省が毎年実施している児童生徒の問題行動等の調査について、長岡市の平成28年度の状況がまとまったため報告する。毎年5月を目途に調査が実施されていたが、今年度は調査時期が遅く、今回の報告となった。初めに、いじめについてである。平成28年度のいじめの件数は、小学校が23件、中学校が32件、合計55件である。継続については、小学校1件、中学校4件、合計5件である。小・中学校ともに、「冷やかしやからかい」「嫌なことや恥ずかしいことをされる」「仲間外しや無視」が多い。発見のきっかけは、被害保護者の訴えが最も多く、中学校では教職員の発見も多い。なお、東日本大震災避難児童生徒48名に対するいじめ事案は発生していない。取組として、臨時校長会におけるいじめに係る研修会や市教育センターの生徒指導担当者による教育実践講座を実施し、教職員の資質及び指導力向上を図った。学校いじめ防止基本方針に基づき、全校体制による即時対応を実践している。全中学校区で「いじめ見逃しゼロスクール集会」を小・中学校と保護者・地域とが連携をして開催し、いじめの未然防止に取り組んだ。今年度も、少しでもいじめがなくなるように、またいじめの見逃しがゼロ

口になるように取り組んでいく。次に、不登校についてである。平成 28 年度の年間 30 日以上欠席者数は、小学校が 69 人、中学校が 171 人で合計 240 人であった。主な要因は、小学校では「不安」、「学校における人間関係」、「無気力」、中学校では「不安」、「無気力」、「学校における人間関係」の順であった。小学校で若干人数が増えているのが現在の状況である。中 1 ギャップ指数（小 6 と中 1 の不登校児童生徒数の比較）は、小 6 時不登校児童が 18 人であった学年が中 1 では 47 人となり、中 1 ギャップ指数は増加した。取組として、月間 7 日以上授業に出席できない児童生徒を学校が毎月報告し、状況が悪化する前に適切な初期対応を学校と連携をしながら進めている。具体的には、学校・心ふれあい相談員・保健師・子どもサポートカウンセラー・学校教育課によるサポートチームを編成し、連携しながら対応を検討している。また、「子どもを語る親のつどい（不登校で悩んでいる親の会）」では、臨床心理士から保護者に具体的なアドバイスを行った。適応指導教室のリーフレットを配布し、相談ケースにつながっている。市内の適応指導教室の利用状況は、長岡フレンドリールームで小学生 8 人、中学生 28 人であり、平成 27 年度より利用者数が増えている。最後に、暴力行為についてである。暴力行為は、小学校で 4 件、中学校で 11 件の合計 15 件であった。その内、小学校 4 件全てと中学校 7 件は「ズボン下ろし」であった。深夜徘徊や怠学による欠席が続いた生徒には、サポートチームを編成し連携しながら問題行動に対応をしている。

（高橋教育長） 質疑、意見はあるか。

（青柳委員） いじめの認知件数のうち、継続が小学校で平成 27 年度、28 年度とも 1 件、中学校では平成 27 年度 1 件、28 年度 4 件であるが、前年度のいじめがそのまま継続しているのか。

（斎藤学校教育課指導主事） 平成 27 年度の継続案件は、平成 28 年度にすべて解消されており、平成 28 年度に継続となったものは全て新規認知件数である。

（高橋教育長） 件数集計の際の基準日はあるのか。それとも年度ごとに計上するのか。

（斎藤学校教育課指導主事） 発生した年度で集計した件数である。

（高橋教育長） いじめは認知することが大事であり、重大事態にならないように対処していくことが必要である。不登校について、長岡の発生率や件数は、県や全国

と比べてどのような位置付けになるのか、この場での報告が難しければ次回の定例会での報告を願う。

(斎藤学校教育課指導主事) 平成 28 年度については、県に報告をしたばかりであり、県及び全国の状況はまだ発表されていない。

(金澤教育部長) 平成 27 年度以前の不登校の状況については、小学校はほぼ県と同等、中学校は若干低い状況であった。

(高橋教育長) 不登校は小学校で増加し、中学校で減少傾向にある。一般的に小学校よりも中学校の方が不登校が多いが、長岡で小学校の不登校が増加し、中学校で減少しているのは何か理由があるのか。分析結果があれば、次回の定例会であわせて報告を願う。また、主な暴力行為は「ズボン下ろし」であったが、いじめの対象の項目のなかにもある。「ズボン下ろし」が暴力行為に該当することは全国的な考え方でよいのか。

(斎藤学校教育課指導主事) その通りである。

(高橋教育長) 「ズボン下ろし」はいじめであると、子ども同士または保護者も交えて学校で指導をする際、暴力行為にも該当すると伝えて指導しているのか。また、暴力行為に該当する「ズボン下ろし」は、どのような行為なのか。

(竹内学校教育課長) 文部科学省では、悪ふざけ等で身体的接触を伴うようなものの中でも、「ズボン下ろし」はいじめにも暴力行為にも該当するとし、特殊な扱いとなっている。

(高橋教育長) 「ズボン下ろし」そのものが暴力行為に該当し、いじめなどで当事者間および保護者も含めた話し合いをする際には、暴力行為に該当することを説明しているのか。

(竹内学校教育課長) 説明を行っており、悪ふざけの場合もあるが、いじめにも該当する重大な人権侵害だということをあわせて説明を行っている。

(高橋教育長) 暴力行為に該当するかどうかは、保護者にとっても当事者間にとっても重要なことだ。暴力を働いてはいけないということは、小さな時から教えているが、「ズボン下ろし」が暴力に該当するとわからずに行っているのではないか。暴力行為であることをしっかりと指導しなければならないと考える。

(柳沢学校教育課主幹兼管理指導主事) 「ズボン下ろし」は基本的にはいじめであ

るが、以前「ズボン下ろし」により性器が露出したことにより自殺に至った事例があった。そのため、性暴力として扱っている。

(高橋教育長) 不登校について、学校に行っているが保健室や別室にいて教室での授業を受けていない場合は、月間7日以上授業に出席できない児童生徒の数に計上されるのか。

(斎藤学校教育課指導主事) 授業には出席していないが学校に行っているので、月間7日以上授業に出席していない数には含まない。

(高橋教育長) いじめや不登校、暴力行為はどこの教育委員会でも、大きなテーマである。数値については状況を把握したが、長岡市教育委員会としての見解や対応、考え方を示せるのであれば、次回の定例会での報告を願う。

(高橋教育長) 次に、子育てあんしん支援者養成講座について事務局の説明を求める。

(大矢子ども家庭課長) 子育ての駅13か所で、防災機能を付加する取組を子育てあんしん避難所事業として、平成28年度より実施している。その事業の一環として開催した講座であり、6月26日、28日の2日間で開催した。参加者は、災害時に乳幼児や妊産婦に寄り添った支援ができる方であり、主任児童委員3名、主任児童委員・母子保健推進員2名、母子保健推進員3名、子育てコンシェルジュ14名の計22名が参加した。また、全講座を受講した13名に、「子育てあんしん支援者養成講座修了証」を交付した。なお、途中講座を欠席された方には、次回案内を行う。講座は4つの内容について各2時間の日程であった。受講者とともに職員にとっても有意な講座であった。また、10月にも同様の講座を開催する予定であり、修了証を交付していない子育てコンシェルジュを中心に周知したい。

(青柳委員) 対象者は大勢いるのに、参加者人数が少なく驚いた。どのような声掛けを行ったのか。

(大矢子ども家庭課長) 子育てコンシェルジュは、14名全員が参加した。主任児童委員は61名おり、研修会の冒頭での案内や、チラシ配布で周知した。また、母子保健推進員は257名おり、総会時の案内や、チラシ配布で周知した。子育ての駅を中心という声掛けの方法があまりよくなかったのではないかと感じている。母子保健推進員や主任児童委員は、災害時に地域での活動をするという意識が高かつ

たため、参加人数が少なかったのではないかと考える。周知の仕方を工夫して、10月の開催に向けて取り組む。

(青柳委員) 地域でも活躍して欲しいからこそ、例えば各地域の協議会から1人は参加してくださいというように依頼したのではないのか。

(大矢子ども家庭課長) そうではない。

(青柳委員) 長時間の講座だが、日数を分散するよりも少ない日数の方がよいという判断で2日間としたのか。

(大矢子ども家庭課長) 午前中に2時間1講座、午後に2時間1講座で2日間、合計4講座の受講日程である。

(青柳委員) 肩書は持っているが、実際の災害時に動けないという場合がないよう、ぜひ、それぞれの協議会に1人は参加してもらえるとよい。

(高橋教育長) 募集人員はどの程度の予定だったのか。

(大矢子ども家庭課長) 40人程度の部屋を確保した。

(高橋教育長) 受講しやすいような工夫をするために、次回参加された方あるいは参加できなかった方に、日程・時間帯・回数について確認し、来年度の参考にしてはどうか。

(羽賀委員) アレルギーや発達障害等様々な子どもがいるが、その対応についての講義はあったのか。

(大矢子ども家庭課長) 講座の中では説明していない。個別に専門家等から話を伺いながら、対応を検討していきたい。

(羽賀委員) 問い合わせ先を冊子等にまとめ、講座に参加できない方々についても困った時に相談できる場所を明確にしてはどうか。

(高橋教育長) 次に、男性保育士研修会実施報告について事務局の説明を求める。

(遠藤保育課長補佐) 保育園では近年、男性保育士の活躍が進んでいるが、保育士全体に占める男性保育士の割合はまだ低く、社会変化に戸惑う保護者や保育園が少なくない状況である。そこで、男性保育士が抱えている課題や思いを話し合う場を設け、それぞれの解決策や保育方針等の共有を図り、男性保育士の職場体制や環境の向上を目的として、研修会を実施した。受講者は、公立保育園・幼稚園・双葉寮・子育ての駅に勤務する男性保育士16人である。なお、全保育士569人のうち男性

保育士は 17 人である。講師は、出雲崎保育園で男性保育士として活躍している松延毅先生である。研修内容は、3 グループでそれぞれのテーマについて話し合った。テーマは、男性保育士で困ったこと、男性保育士で良かったこと・楽しかったこと、男性保育士として目指す理想像である。その後、各グループでの話し合いの内容を発表し、講師から総括があった。今回初めて男性保育士の研修会を実施し、普段思っていることや相談し難いこと等を話し合えるよい機会となった。

(高橋教育長) 質疑、意見はあるか。

(高橋教育長) 保育園については、公立の男性保育士だけが対象なのか。私立に男性保育士はいないのか。

(遠藤保育課長補佐) 私立保育園にもいるが、今回は公立保育園のみを対象とした。

(高橋教育長) 人数の制限がないのであれば、私立保育園の男性保育士にも声掛けを行ってはどうか。また、実施の経緯には、新聞やテレビ等で保護者の中には男性保育士が子どものおむつを替えるのに抵抗がある方がいるという報道も関係しているのか。

(遠藤保育課長補佐) 背景にある。

(高橋教育長) 長岡市でもそのような意見はあるのか。

(遠藤保育課長補佐) 直接保育課に意見は届いていないが、報道後に園を訪問した際に、園長からそのような声があると聞いたことがある。

(高橋教育長) 保育士の職場だけではなく、病院や介護施設にも、男性職員も女性職員もおり、排泄や入浴の介助等を行っている。理想もあると思うが、現在の世の中の状況で、このような報道や意見が独り歩きすると、働いている人は大変な思いをすると気にかけていた。

(遠藤保育課長補佐) 男性保育士からは、報道により意識が高まったと聞いている。

(高橋教育長) 次に、平成 29 年度ポニー事業について 事務局の説明を求める。

(小林青少年育成課長補佐) 平成 29 年度ポニー事業の事業計画を報告する。ポニーとのふれあいを通して子どもたちの達成感、主体性、豊かな情操を育むことを目的とする。1 つ目に、グラウンドポニースクールを 9 月 8 日から 10 月 2 日の期間に開催し、14 校訪問する予定である。そのうち、総合支援学校には毎年訪問を行っている。また、昨年度に引き続き、柿が丘学園と教育相談室に通う児童・生徒等

を対象としたプログラムも実施し、学校では通常授業形式の内容であるが、親子での乗馬体験を行う。2つ目に、支所地域巡回ポニーカーニバルは、和島地域と与板地域の2か所を訪問する。平成25年度から支所地域を巡回しており、今年度で山古志地域を除く全ての地域を巡回することとなる。3つ目に、ながおかポニーカーニバルを、9月24日に市民防災公園で開催する。4つ目に、ポニーとキャンプ in 蓼科を7月28日から31日に3泊4日で実施する。これまで定員の2倍から2.5倍の応募があり、42名の定員を60名に増やしたが、今年度の応募は残念ながら53名であった。週末の開催であったため、イベントや家族との行事等により応募率が下がったと考える。5つ目に、平成28年度から実施しているポニーとキャンプ in 蓼科（冬季キャンプ）を12月23日から25日の2泊3日で実施する。夏季キャンプの応募率が多かったため、平成28年度から冬季キャンプを実施した。平成28年度は20名の定員で2倍程度の応募があったため、平成29年度は30名に定員を増やした。運営方法は、実行委員会方式であり、青少年育成団体、福祉団体、ボランティア等で構成する「ながおかワクワクポニー実行委員会」を設置し、企画・運営を委託している。また、ポニーの管理及び乗馬指導は公益財団法人ハーモニセンターへ委託する。

(高橋教育長) 質疑、意見はないか。

(高橋教育長) 各学校で実施する際に訪問し、乗馬体験の様子を見学できればよいのではないか。

(高橋教育長) 次に、附属機関等会議報告について 事務局の説明を求める。

(梅沢中央図書館長補佐) 平成29年度 第1回長岡市図書館協議会について報告する。7月11日に中央図書館で開催し、委員9名、事務局10名が出席した。会議内容は、平成28年度の図書館活動評価について、貸出冊数や図書館登録者数等の数値的評価、郷土資料の収集、本と人をつなぐ事業の実施について評価を受けた。優れた取組があったとして、全体として成果があったと評価された。平成29年度の重点施策については、長岡市災害復興文庫展、詩人堀口大学と長岡という展示会、子供向けのクリスマススペシャルコンサート等のイベント事業を行う。これらの事業を、平成30年度図書館創立100周年のプレイベントとして位置づけ、広く市民に図書館の役割を周知し、さらに図書館が活用されることを目的とする。協議事項

としては、平成 29 年度長岡市図書館活動評価（案）についてと、長岡市立図書館開館 100 周年ロゴマークについて承認を得た。ロゴマークについては、6 月の 1 カ月間で 2,355 票の投票があり、6 点の中から 839 票を獲得した 1 番が選ばれた。協議会での意見を、図書館運営に役立てたいと考える。

(小熊科学博物館長) 平成 29 年度 第 1 回長岡市水族博物館協議会について報告する。7 月 7 日に寺泊文化センター(はまなす)で開催し、8 名の委員が出席した。会議内容は、平成 29 年度事業実施計画・状況について、水族博物館整備事業の計画(概要)についてである。意見として、水槽の周りは大人向けの説明文が多く、低学年の子どもにはわかりにくいため配慮した方がよいというものがあった。水族博物館では、踏み台等を使い対応しているが、小さな子どもにもわかりやすいよう工夫したい。また、2 階屋外に時計がないため集合時間の確認ができず困っている子どもがいたことから、時計を設置してほしいとの意見があった。塩害もあるため、設置場所を検討し、見やすい時計を設置したいと考える。さらに、平成 30 年度以降にトキ分散飼育場のトキが一般公開されることにあわせ、水族博物館でも企画展などを計画してはどうかと意見があった。寺泊民俗資料館が今年度からトキと自然の学習館(夏戸センター)に移転し整備されることもあるため、今後いろいろな事業を展開するよう検討したい。

(高橋教育長) 質疑・意見はないか。

(高橋教育長) 次に、催し案内について、補足説明のあるものは挙手を願う。

(竹内学校教育課長) ながおかハイスクールガイダンスは、県教育委員会が主催する県立専門高校メッセと同時に開催する。その他、例年実施している夢づくり工房 in 長岡造形大学、キッズ イングリッシュアカデミー、子ども料理コンテストを開催する。また、新しい取組として、ながおか・若者・しごと機構と共催で夢づくりプログラミング教室を開催する。

(梅沢中央図書館補佐) 夏休み☆まいにち工作と夏休み☆こども造形講座を開催する。夏休み☆まいにち工作は、東日本大震災の頃から、公共施設の利用を推進するために実施している。夏休み☆こども造形講座は、講師から直接指導してもらう楽しい企画となっている。夏休みの宿題対策にもなるため、引き続き募集したい。

(高橋教育長) 東日本大震災により、電力が切迫していたため、一般家庭で日中に

使用する電力を節約する目的で、家族揃って公共施設への外出を促した経緯がある。
(大矢子ども家庭課長) 長岡市出身の作家である松岡達英氏の絵本原画展を開催する。平成 28 年度は 1 週間の開催だったが、平成 29 年度は 2 週間の開催となる。特に日本絵本賞を今年度受賞した「イモリくんヤモリくん」の原画展示もあるため、ぜひ御覧いただきたい。

(小熊科学博物館長) 東北の土器と火炎土器 I というテーマで特別展を開催する。新潟県内各地の博物館や教育委員会より資料を借り、福島や山形に広がっていた東北系の土器の資料を集めて展示する。火炎土器に大きな影響を与えているものである。中でも、阿賀町教育委員会所蔵の土偶は、ピアスを着けている表現であり大変珍しいものである。

(小林青少年育成課長補佐) 家庭でワクワクお手伝い通信を、7 月 13 日に発行した。平成 29 年度は、4 号発行予定であり、夏休み前に、小学校・中学校の保護者向けに送付できるよう発行した。平成 29 年 1 月に実施した、家庭でのお手伝いへの取組のアンケート調査の結果も記載した。また、今年度も家庭でワクワクお手伝いポスターコンクールを実施するため、募集案内も掲載した。入賞作品は、11 月の強化週間にアオーレやさいわいプラザでポスター展示を行う予定である。さらに、親も育つ子育てセミナー児童・思春期コースを、9 月 6 日から 11 月 8 日の期間に全 8 回の連続講座として実施する。小・中学生の子を持つ保護者、または関心のある人が対象である。

(高橋教育長) その他に報告事項はあるか。

(高橋教育長) 以上で本日の定例会を閉会する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員